

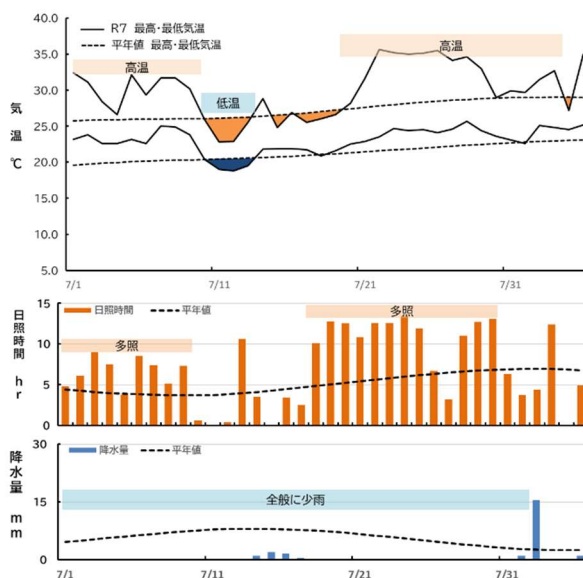
稲作情報(Vol.8)

令和7年8月18日
石巻地方米づくり推進本部
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

管内の出穂期は7月30日で平年より1日早い。収穫適期は9月上旬の見込み。

7月下旬以降の気象経過

7月下旬の気温は平年を上回って推移し、7/21～7/29は、連日最高気温が30℃を超える真夏日となりました。日照時間は平年比166%と上回っています。降水量は期間中0mmと、記録的な少雨により、渇水の対策が取られています。8/2に15mmの降雨がありましたが、8月も高温少雨傾向が続いています。



※平年値はアメダス5カ年平均

水稻の生育状況

＜移植栽培＞

出穂期は平年より1～4日早い

- ◎ 出穂期は7/24～8/2と平年より1～4日早いまたは平年並となりました。
- ◎ 穂揃期の葉色は30.2～33.8で平年より淡い～やや濃いと、ほ場により差がありました。
- ◎ 止葉葉位は、12.2～13.0枚で、つきあかりほ場を除き、平年並となりました。

表1 移植栽培の生育調査ほ等の調査結果（穂揃期調査）

品種名	地区名	田植月日	出穂始期 (平年差)	出穂期 (平年差)	穂揃期 (平年差)	穂揃期葉色 (平年差)	止葉葉位 (平年差)	備考
ひとめぼれ	石巻市広瀬	5/7	7/28 (+1)	7/30 (+1)	8/1 (-0)	32.2 (+1.3)	12.2 (-0.6)	0は参考値
	東松島市矢本	5/8	7/24 (-4)	7/26 (-4)	7/29 (-3)	28.7 (-3.0)	12.2 (-0.6)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/16	8/1 (+2)	8/4 (+3)	8/7 (+3)	33.8 (+1.8)	13.0 (+0.1)	
	石巻市稲井	5/9	7/25 (-4)	7/27 (-4)	7/29 (-7)	31.1 (-3.5)	12.6 (-0.1)	
つきあかり	石巻市広瀬	5/9	7/22 (-1)	7/24 (-1)	7/26 (-2)	30.2 (-10.3)	12.2 (-1.4)	0は前年比

＜乾田直播栽培＞

- ◎ ササニシキの出穂期は7/31と平年より4日早まりました。穂揃期葉色は36.7で平年より、濃くなっています。止葉葉位は12.4枚で平年並でした。
- ◎ ひとめぼれでは出穂期が8/5で、穂揃期の葉色は37.8、止葉葉位は12.0枚で、概ね前年並でした。

表2 乾田直播栽培の生育調査ほ等の調査結果（穂揃期調査）

品種名	地区名	播種日 (平年差)	出穂始期 (平年差)	出穂期 (平年差)	穂揃期 (平年差)	穂揃期葉色 (平年差)	止葉葉位 (平年差)	備考
乾直ササニシキ	石巻市河南	4/7	7/29 (-4)	7/31 (-4)	8/3 (-4)	36.7 (+3.3)	12.4 (+0.0)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	3/26	8/2 (+1)	8/5 (-1)	8/7 (-2)	37.8 (-0.6)	12.0 (-2)	0は前年比

表 3 管内及び県の出穂状況

	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
石巻管内	7/26	7/30	8/9 見込み
前年	7/25	7/29	8/5
平年	7/28	8/1	8/9
宮城県	7/25	7/30	8/9 見込み
前年	7/24	7/29	8/5
平年	7/28	8/1	8/9

※平年値は、過去 10 か年から最も早い年と遅い年を除いた
8 か年の平均

管内全体の出穂期は 7/30 で平年より
2 日早くなりました。乾田直播栽培は、
生育期間が高温で推移したものの、移植
栽培より数日遅れて出穂しています。

県全体の出穂期も 7/30 で平年より 2
日早くなりました。

今後の管理

1 水管理

農業用水の節水に努めましょう。 ～出穂後 30 日頃までは飽水管理を～

- ◎ 6月・7月の高温少雨により、ダムの貯水率が平年を下回っています。農業用水が不足する恐れがありますので、節水に努めましょう。
- ◎ 出穂期は水を多く必要とする時期なので、可能な限り浅水管理とし、その後は飽水管理で水を切らさないようにしましょう。出穂期前後の基本的な水管理は下図のとおりです。
- ◎ 出穂後5～15日の最低気温23℃以上が連続するような高温の場合、白未熟粒が多発し、著しい品質低下を招く危険がありますので、「飽水管理」を行うことで日中及び夜間の地温上昇を抑えることが期待できます。

※飽水管理：足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する（表土が十分湿る程度）管理方法。
十分な用水の確保ができず「昼間湛水・夜間落水管理」等が難しい地域やほ場で有効です。

- ◎ 早期落水は、登熟不良や品質低下の原因となるので、出穂後30日を目安に、

収穫作業に支障のない範囲でできるだけ遅く落水しましょう。

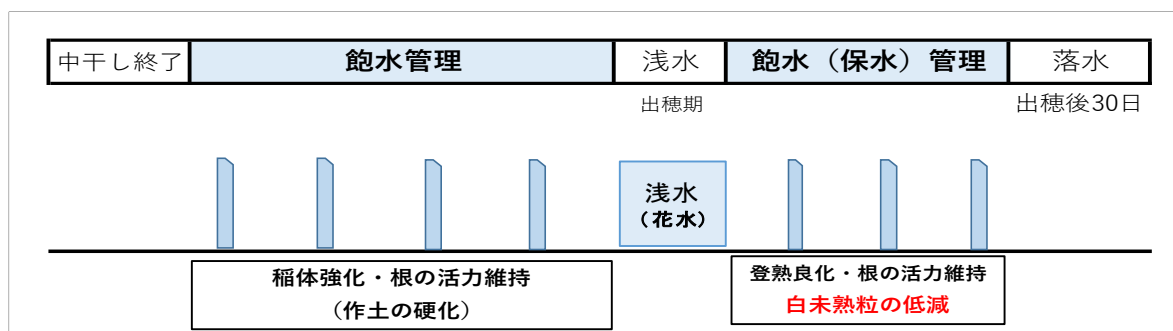


図 2 高温時の飽水管理体系

2 適期刈取 ～出穂が早く気温も高いため、収穫適期は大幅に早まる見込み～

一般的なひとめぼれ、ササニシキの刈取早限にあたる成熟期は、籾の80～90%が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変したときとなります。出穂後の日平均積算気温からみた刈取適期の目安は表4及び表5のとおりで、出穂期が早いことと出穂後の気温が高く推移しているため、**刈取適期は9月上旬頃（9/5～9/12）と、平年より大幅に早まります。**

表4 積算気温による刈取適期の目安

積算気温による刈取適期の目安

		管内出穂期		
		始期 7/26	盛期 7/30	終期 8/9頃
刈取早限	940℃	9/1	9/5	9/17
刈取適期	1,000℃	9/3	9/8	9/20
刈取晩限	1,100℃	9/7	9/12	9/24

※8/5までは石巻アメダスの平均気温、8/6～8/18は2週間確率予測、その後は5カ年平均気温を使用。

表5 品種毎の刈取適期の目安

品種名	積算気温	出穂後日数
ひとめぼれ	940～1,100℃	40～45日
ササニシキ	930～1,150℃	45～50日
つや姫	1,000～1,200℃	50～55日
まなむすめ	960℃前後	45～50日
だて正夢	1,020～1,060℃	50日前後
金のいぶき	1,050～1,150℃	50～55日
みやこがねもち	1,000℃前後	45～50日

3 病害虫対策 ～斑点米カメムシ類の発生量は多い～

斑点米カメムシ類：本田侵入始期は「早い」、発生量は「多い」

- ・8月1日に宮城県病害虫防除所から発表された病害虫発生予察情報では、斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ）の本田侵入始期は「早い」（第2世代成虫：8月第2半旬）、発生量は「多い」と予想されています。
- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合やクモヘリカメムシが多発している場合は、追加防除が必要となります。イヌホタルイが除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させることができます。
- ・環境保全米等でやむを得ず1回防除となる場合には、穂揃後3～5日頃に散布してください。

穂いもち：発生量は「やや少」

- ・上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源となります。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布してください。
- ・茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施してください。
- ・直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施してください。
- ・BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の推定結果は、右のHPを参照してください。なお、8月5日時点では、感染好適条件の連続した出現は確認されていません。



BLASTAM

紋枯病の発生量は「平年並」

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討しましょう。
- ・要防除水準：「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施してください。
※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用してください。
- ・多発が予想されるほ場では、穂揃期に追加防除を実施してください。

東北地方 1 か月予報

(8月9日から9月8日までの天候見通し)

令和7年8月7日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北太平洋側	50	30	20
【日照時間】	東北太平洋側	10	30	60

<気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	20	70
2 週 目	東北地方	10	10	80
3～4週目	東北地方	10	20	70

宮城県農薬危害防止運動実施中！(6月1日から8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です！！

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数人で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたときに活躍



ミストファン